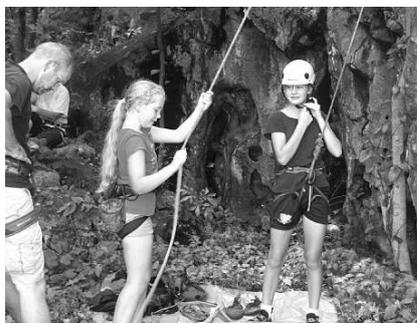


# モイモイのモイ

(一歩一歩のたった一歩)



スムロンにカンボジアンスタイルのガイドを頼んだアメリカ人一家と。岩場はシンボン



お手手を披露するアシスタント・ガイドのモニイ君

## カンボジアンスタイル・ガイド

2011年雨季のある日、アンコール小児病院に看護ボランティアに来たクライマーを自称するドイツ人女性、アニカ(仮称)が、スムロンをシンボンの岩場に誘った。スムロンは、クライ

ミングツアーはお金になると思っていた。しかし現在の欧米諸国での同様の仕事で得られる

レベルの収入を得られるほどの技術も意識も、まだ彼の中には育っていない。しかし、アニカはスムロンをプロの講師としてではなく、費用をシェアできるパートナーとして誘ったのだ。スムロンから相談を受け、僕は彼女にこう話した。

「ツアーに出掛ける費用を考えてください。スムロンをツアーの経費がシェアできる同等のパートナーと考えるのはフェ

## 目指せ、アンコールクライマー誕生!!

アではありません。クラッグへの往復のタクシー代だけで標準的には60ドル掛かります。スムロンは中学校の教師で、やっとサラリーが83ドルに上がったところ。日給ではなく月給です。彼には奥さんと生まれたばかりの子供もいます。彼はACNが推薦するガイドです。英語も話せるしビレイもうまいし、アンカーも作れます。エリアにも詳しいし、土地のひとつもま

くやれます。必要などきにお寺に寄進したりして周囲との調和を常に思いやれます。5・10はリードするでしょう。自分のギアは持っています。もしあなたもパートナーを欲しいのであれば、彼を合理的に雇用されるようにお奨めします。無論、必要な経費は全部あなた持ちです。彼に対する僅かな日当も考えてください。もしあなたの方が2〜3人のパーティなら、スムロンの雇用はかなり楽なはず。あなたにとって便利なのは、ACNが彼をクライミングに特化された障害保険に掛けていることです。

本来なら雇用主がガイドに掛けるべきものです。ネパールのシエルパ(族)をご存知ですか? あるいは19世紀のヨーロッパアルプスにいた屈強のガイドたちは意識の上ではもつと以前、19世紀かなと個人的には思います。言いたいことはこうです。ツアーの安全と成功に責任があるのはガイドではなく、まったく逆で、あなたなのです」

彼女に話した、スムロンが、現状ACNが希望者に提供するクライミングガイドだ。同様の問い合わせは年々増加している。僕の返答は当然同じだろう。ガイドはクライアントと面談し、スキルを中心とした資料を提示する。ガイドはクライアントの適性も確認する。双方合意ができれば基本契約を締結し、ガイド業務を実施する。契約書はACNが用意する。しかし実はアニカのような人が、のちに僕らのコソペを支えるボランティアの予備軍になると言える。(続く)